すばらしかったエイゼンさん！

一九五六年日本のうたごえ祭典にソ同盟から文化使節として参加したアルトゥール・エイゼンさんのすばらしいうたごえは、日本のうたごえ参加者はもちろん、東西での演奏会、ラジオ、テレビてその声と姿に接したすべての人を感動させた……

日本民謡演奏のかげに

エンゼンさんが、日本語でうたった日本民謡「そーらん節」と「五木の子守唄」には、日本中の人がびっくりしたり、感心したりしたが、その陰にはモスクワに留学中の小野光子さんの並々ならぬ協力と援助があった。

とつぜんきまった日本訪問のあわただしい旅行準備の短い期間にエイゼンさんの言葉によれば「光子さんを酷使して」、日本のうたごえについて説明をうけ、祭典で何をしたらよいか相談し、日本の人々へのお土産に日本民謡の教授をうけた。

日本のうたごえ祭典の前夜、小野さんは、モスクワ放送を通じて日本の国民によびかけたあいさつの中で「私もエイゼンさんが日本語でうたうようにお手伝いして、このことで遠くモスクワから日本のうたごえ祭典に参加させていただきたいと思います」と語った。

上段エイゼン氏の写真は、日本報道写真家集団近藤彰利氏撮影、サインは毛筆を使ってかいたもの。

皆さんに日本での印象をお話するに先立って、皆さんをタバリシチ(同志)と呼ばせていただきたい。私たちは日本についた最初の日から今日まで感動し、興奮しつづけてきました。それは、何よりも皆さんの運動が大衆性にあふれるばかりであり、また非常に組織的であったからです。

はじめは、まずうたう人の数の多いことで感心し、ついで演奏のすばらしさに感心しました。

皆さんのお仕事は、皆さん自身が評価できる立場にあると思いますが、皆さんのお仕事はお国の国境をこえたものです。

皆さんは習ったうたを歌うだけでなく、あちこちにうたいひろめています。皆さんのその姿をみますと、美しく、すてきな、うたそのもののような気がいたします。

私たちは、皆様全部をモスクワにお招きしたいのですが、限られた全権なので残念ながら希望通りにはできません。しかし、もし、皆さんが機会をえてモスクワにいらっしゃるならば、ソヴエトの人たちはきっと心から歓迎いたします。ソヴエトの聴衆は真の芸術を尊敬し頭を下げます。皆さんの芸術は真の芸術です。美と幸福と平和によびかける芸術です。

私たちは関さんが、私たちを日本にお招き下さったことに限りない感謝をささげます。お友だちの皆さん。

このすばらしい数日の間に、日ソ両国の人民が、このの ち愛情と友好、人類愛にかたく結びあってゆくことができると確信します。重ねて、皆さんの熱烈な皆さんの歓迎にお礼のことばをささげます。関さんのあふれる行届いた心使いにお礼を申しのべますさいごに、日本の婦人に対しての感想ですが、私たちは日本の全部の婦人を語るほど日本に長くいませんが、私たちだけでなく、数百万のソヴエト人民が来れば、きっと愛情と尊敬の対象を日本婦人の中に見出すだろうと思います。私たちは日本の婦人が好きですがいちばん好きなのは関さんです。

(音楽センターでの挨拶より)

日本のうたごえの皆さんに

アルトゥール・エイゼン
キリール・ヴイノグラドフ
ユリー・リヤーボフ

皆さんの指導者である尊敬する関さんのこの事業は、日ソ両国の友好を深めるのに非常に大きな貢献をしています。

私たちは両国の人民が、このの ち愛情と友好、人類愛にかたく結びあってゆくことができると確信します。重ねて、皆さんの熱烈な皆さんの歓迎にお礼のことばをささげます。関さんのあふれる行届いた心使いにお礼を申しのべますさいごに、日本の婦人に対しての感想ですが、私たちは日本の全部の婦人を語るほど日本に長くいませんが、私たちだけでなく、数百万のソヴエト人民が来れば、きっと愛情と尊敬の対象を日本婦人の中に見出すだろうと思います。私たちは日本の婦人が好きですがいちばん好きなのは関さんです。

(音楽センターでの挨拶より)

エイゼン氏に学ぶ

宮原卓也

まず声の点については、外国人としてそれほど声量があるとは思えませんでしたが、非常に鍛練された声だと思いました。とくに高音のピアニシモがすぐれています。またフォルティシモの方でも決して無理をせず自然に声を出している点が日本人には参考になるでしょう。

つぎに表現の点ですが、非常に自由に、充分なフィーリングをもってうたっていることに感心しました。自分の国の言葉で歌っているだけに、歌をよく消化して身体全体でうたっています。演劇の素養を生かし、ステージ・マナーとしても、声ばかりでなく身体に表情が現れているのは外国人でも滅多に見られない優秀な表現のしかただと思います。

ここで、とくにエイゼン氏は日本人が外国の歌をうたう場合のありかたについて一つの成果を示してくれたといえます。わが国では日本人が外国語で外国の歌をうたうことについて非難の声さえありますが、エイゼン氏は、例えばシューマンの歌を自国語に翻訳しドイツのシューマンでなく、自国にもってきたシューマンとして、ロシア化された音楽としてテンポ、抑揚に独得の解釈をしてロシア的にうたったのです。「われは怨まし」などはテンポは倍のおそさになっていましたが、決してダレたりしないで、ロシア的に生きた音楽として表現されていましたこのような方法が妥当だということは必ずしも断言できませんが、日本にもよくある猿真似ではない、外国の歌をうたう一つの方法として注目されます。

エイゼン氏の演奏からはいろいろなものを聞きとることが出来ましたが、私は聴衆にあたえる影響について考えさせられることがあります。それは、彼が「蚤の歌」のような劇的な俗にいうハッタリ的な歌と共に、しんみりした、内的な味いをもった歌とを併せ演奏したことです。ということは、彼が日本の聴衆を高く評価して両方ともうけいれられることを期待したことを意味すると思うのです。しかし、日本の聴衆の側をみると、やはり前者の方が拍手が多く、よろこばれていたようで、彼は演奏の中で日本の聴衆に無言のうちにもっと高い音楽的な鑑賞を要求したと言っても過言ではないでしょうこれから日本の勤労者の聴衆にとってしんみりと鑑賞する感覚を会得することも大切だと私は思います。

さいごに、エイゼン氏の演奏した日本民謡についてですが、外国人として非常によく勉強していると思いました。よくある芸術家ぶった気取りでうたうことなく、純粋な気持で解釈してうたっていることがよくわかりました。あの日本の漁師になりきった気持でうたった「そーらん節」は真の芸術家としての演奏をもたらしていたと感じさせられました。あのドッコイショのかけ声などはアカデミックな人には出せない所で、日本人より日本語がうまいはずはないのに、日本人よりうまく歌ったという批評までされたのは、エイゼン氏がほんとに生の気持で、「そーらん節」らしく心をこめてうたったからだといえるでしょう。(バリトン、二期会所属)

偉大さに心うたれた演奏

エイゼンさんが歌われた歌の中で「そーらん節」と「東京ーモスクワ」に場内は万雷の拍手がなりわたり、まさに「鳴りやまぬ拍手」でした「ヴオルガの舟唄」のときでも、低い低い声でも、広い広い会場の隅にいる私にもよく聞きとれる声量をもっていましたしバス独唱の声は、高音、中音、低音を通じて美しく、何と申しすか、みがかれたつやのある声とでもいうか大へん美しくありましたそして、氏の紹介があり全員で合唱したとき、コーラスの中に入って体を左右に同じくゆりうごかしながら合唱されたのをみて、私はエイゼン氏を知り、その国に信頼をおぼえ、偉大さに心うたれました(京都こだま、さーくる機関紙より、——樋口武雄)

1956年日本のうたごえ祭典参加　—センター・レコード—

アルトゥール・エイゼン

来日記念吹込

(曲目)〈僕ら青年 / 東京ーモスクワ　☆　独唱 アルトゥール・エイゼン　合唱 中央合唱団・白樺合唱団　指揮 上田仁　伴奏 東京交響楽団

青年歌曲
労働歌
フォークダンス
全24枚発売中

一枚 300円
送料5枚迄 200円

やさしいフォークダンス　楽団カチューシャ編　100円(〒10円)
青年歌集ピアノ伴奏曲集　関井上鑑頼子豊編　140円(〒30円)

大好評発売中！

東京都新宿区西大久保3の67　音楽センター　電(36)5220〜1. 振替 東京 69611